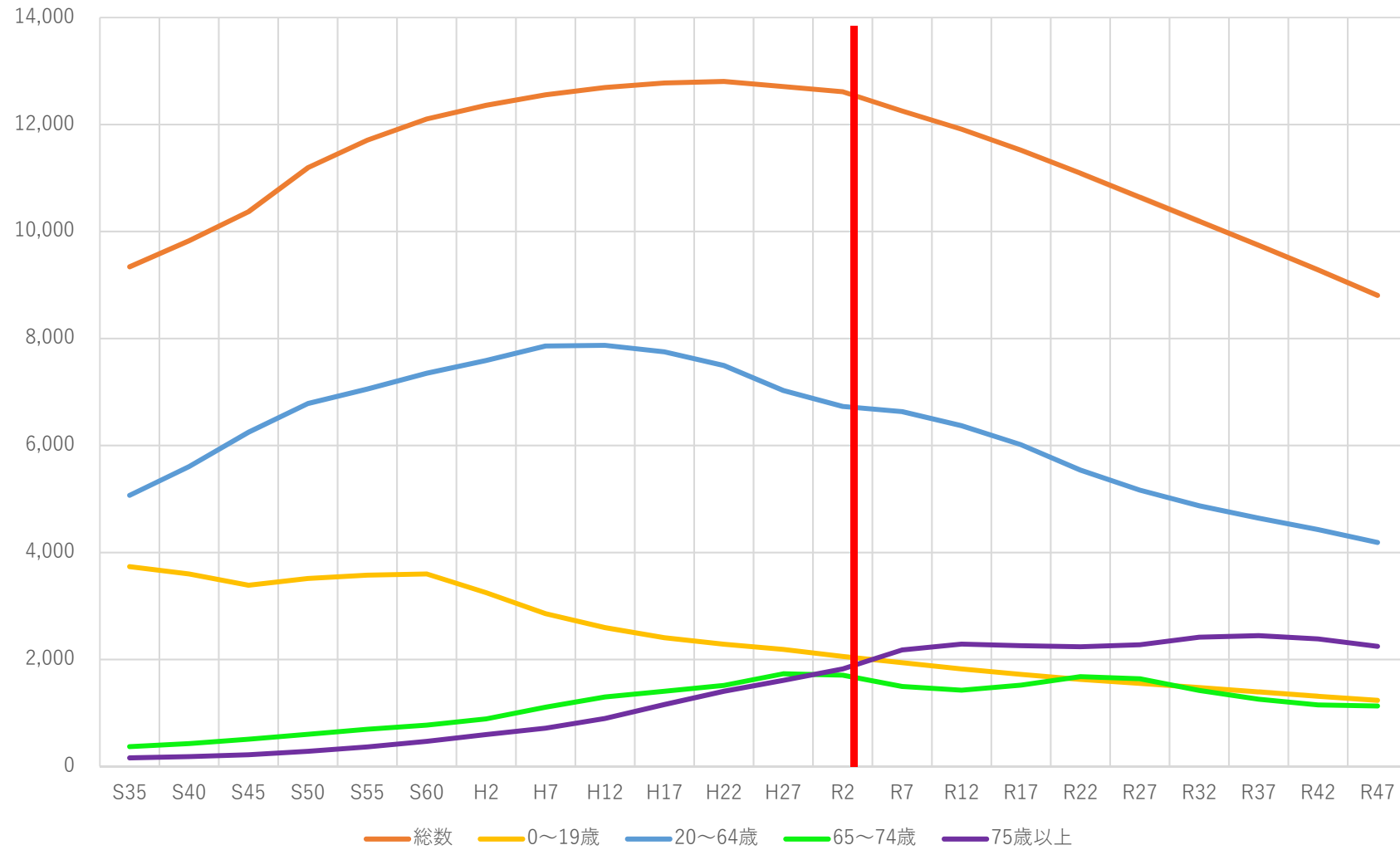


小中学校適正規模等並びに 老朽化対策地区検討協議会

愛西市教育委員会

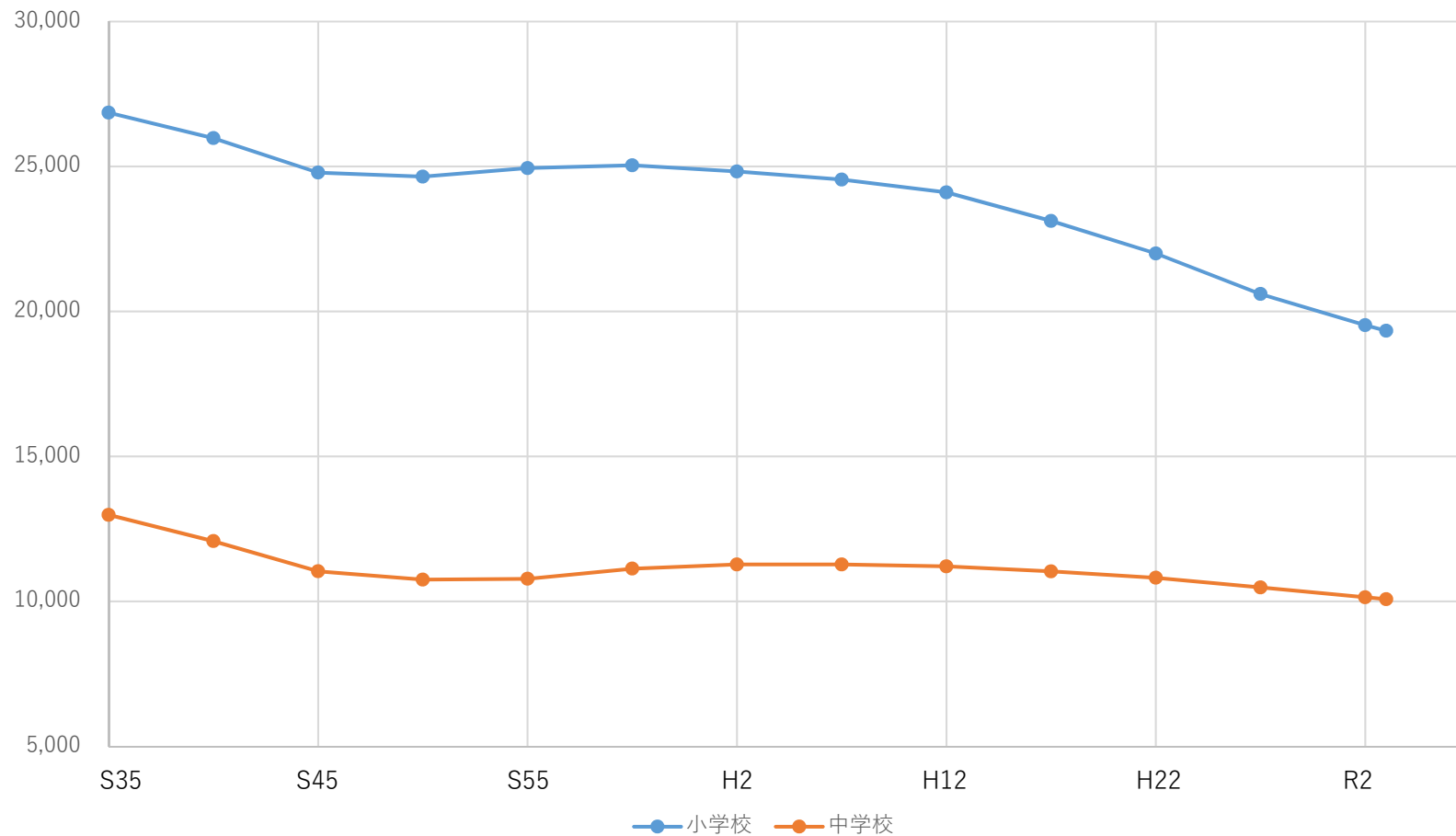
愛西市立小中学校を 取り巻く背景

日本の人口の推移 (単位：万人)



※国立社会保障・人口問題研究所HP「人口統計資料集（2022年版）」参考

日本の小学校数・中学校数の推移



※文部科学省HP「文部科学統計要覧（令和4年版）」参考

愛知県・岐阜県・三重県の中学校統合状況（2010年～）

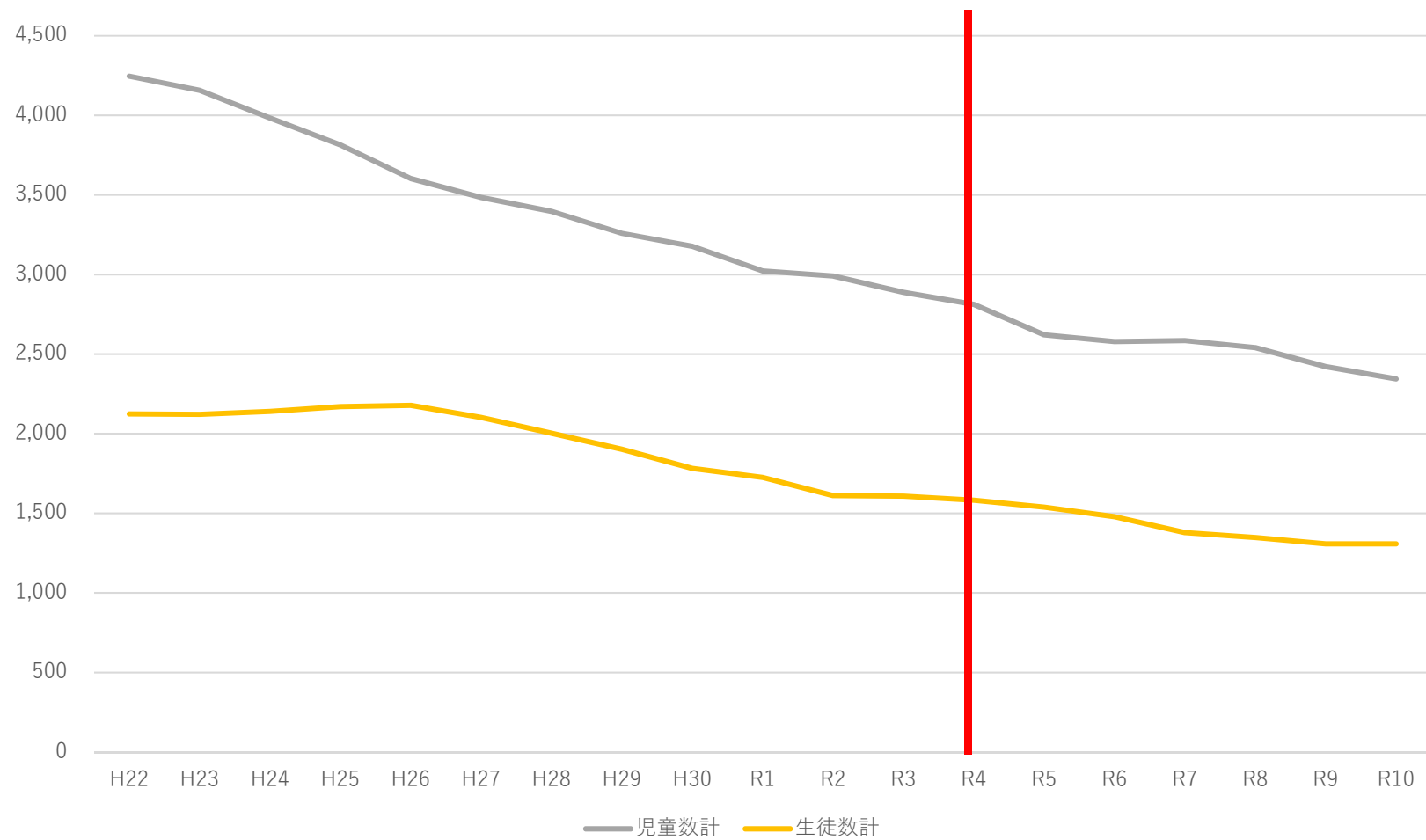
愛知県			
自治体名	設立年		学校名
瀬戸市	2020	令和2年	瀬戸市立にじの丘学園
田原市	2016	平成28年	田原市立田原中学校
	2019	令和元年	田原市立福江中学校
	2021	令和3年	田原市立赤羽根中学校
豊根村	2015	平成27年	豊根村立豊根中学校

三重県			
自治体名	設立年		学校名
伊勢市	2017	平成29年	伊勢市立伊勢宮川中学校
	2019	令和元年	伊勢市立桜浜中学校
鳥羽市	2014	平成26年	鳥羽市立鳥羽東中学校
	2022	令和4年	
志摩市	2013	平成25年	志摩市立文岡中学校
	2013	平成25年	志摩市立大王中学校
	2014	平成26年	志摩市立志摩中学校
	2018	平成30年	志摩市立東海中学校
伊賀市	2012	平成24年	伊賀市立上野南中学校
南伊勢町	2014	平成26年	南伊勢町立南島中学校

岐阜県			
自治体名	設立年		学校名
関市	2016	平成28年	関市立板取川中学校
	2016	平成28年	関市立津保川中学校
美濃市	2012	平成24年	美濃市立美濃中学校
瑞浪市	2016	平成28年	瑞浪市立瑞浪南中学校
	2019	令和元年	瑞浪市立瑞浪北中学校
飛騨市	2011	平成23年	飛騨市立古川中学校
下呂市	2017	平成29年	下呂市立萩原南中学校
海津市	2016	平成28年	海津市立城南中学校
郡上市	2011	平成23年	郡上市立郡上東中学校
関ヶ原町	2021	令和3年	関ヶ原町立関ヶ原中学校
揖斐川町	2014	平成26年	揖斐川町立北和中学校
	2022	令和4年	
	2014	平成26年	揖斐川町立揖斐川中学校
白川町	2022	令和4年	白川町立白川中学校

※学校名は統合後の校名を記載

愛西市児童生徒数の推移



● 学校規模の適正基準

規模の種類	小学校	中学校
過小規模校	～ 5 学級	～ 5 学級
小規模校	6 学級 ～ 1 1 学級	6 学級～ 8 学級
適正規模校	1 2 学級～ 1 8 学級	9 学級～ 1 8 学級
大規模校	1 9 学級～ 3 0 学級	1 9 学級～ 2 4 学級
過大規模校	3 1 学級～	2 5 学級～

愛西市では国の基準を参考に、学校規模基準を以上のように定めました。

(令和 4 年 6 月 「愛西市立小中学校適正規模等基本方針 (改訂版)」 より)

●小規模中学校にみられる傾向（課題）

デメリット

学習・生活面

- 学習や進路選択の模範となる生徒の数が少なくなる。
- 進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある。
- 多様な活躍の機会が少なく、多面的な評価の中で個性を伸ばすことが難しい。
- 部活動の選択肢が限られる。
- 集団の中での自己主張や他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身に付きにくい。
- グループワークやディベート等のアクティブ・ラーニングの効果的な実践が困難になる。
- 教科専門の先生から授業を受けられない場合がある。

（令和4年6月「愛西市立小中学校適正規模等基本方針（改訂版）」より）

●小規模中学校にみられる傾向（課題）

デメリット

学校運営面

- 教科ごとの専任科目の教職員の人数が足りない。
- 経験年数、専門性、男女比等バランスのとれた教職員配置や、それらを生かした指導の充実が困難となる。
- 部活動の指導者確保が困難となる。

（令和4年6月「愛西市立小中学校適正規模等基本方針（改訂版）」より）

●適正化の要件

今後、小規模校、特に中学校の小規模校の課題を解消し、より充実した教育環境を構築するために次の点に配慮して、適正化を図る必要がある。

- ア. 児童生徒の望ましい集団生活を通して、学力定着、学習意欲向上、規律性や協調性、競争心、コミュニケーション能力を育み、発達段階に応じた社会性や自己肯定感を獲得できるような学級規模・人数にする。
- イ. 児童生徒の通学距離・時間等に配慮し、心身の負担を軽減する。

(令和4年6月「愛西市立小中学校適正規模等基本方針(改訂版)」より)

●適正化の要件

- ウ. 授業の改善や指導法等の研究を充実させるために、同一学年担当教師が情報交換や研究協議などができる環境を作る。特に中学校では、各教科の専門教員が確実に配置される必要がある。
- エ. 生涯学習、スポーツ等の活動場所、地域防災拠点など地域住民にとって核となる身近な施設であることを踏まえ、各地区の地域性や歴史に十分配慮して将来の学校像を考える。
- オ. 適正化に取り組むにあたり、学校施設の老朽化の進行状況を踏まえる必要がある。

(令和4年6月「愛西市立小中学校適正規模等基本方針(改訂版)」より)

愛西市学校別児童生徒数及び学級数 令和4年度・令和10年度比較表

(赤字：小規模校 ピンク着色：過小規模校)

《佐屋地区》	人数		学級数	
学校名	令和4年度	令和10年度	令和4年度	令和10年度
永和小学校	312	269	12	11
市江小学校	207	176	8	7
佐屋小学校	545	507	18	17
佐屋西小学校	218	204	9	8
永和中学校	194	145	6	6
佐屋中学校	499	495	15	15
《立田地区》	人数		学級数	
学校名	令和4年度	令和10年度	令和4年度	令和10年度
立田南部小学校	125	91	6	6
立田北部小学校	135	102	6	6
立田中学校	182	115	6	5

※令和4年度は学校基本調査から通常学級のみ抽出

※令和10年度は令和4年7月1日現在の未就学児から推計/1クラス35人で算出

愛西市学校別児童生徒数及び学級数 令和4年度・令和10年度比較表

(赤字：小規模校 ピンク着色：過小規模校)

「八開地区」	人数		学級数	
学校名	令和4年度	令和10年度	令和4年度	令和10年度
八輪小学校	88	82	6	6
開治小学校	79	61	6	6
八開中学校	101	89	4	4
「佐織地区」	人数		学級数	
学校名	令和4年度	令和10年度	令和4年度	令和10年度
北河田小学校	305	257	12	11
勝幡小学校	189	195	7	8
草平小学校	267	196	12	8
西川端小学校	204	204	9	7
佐織中学校	286	235	9	9
佐織西中学校	272	229	9	8

※令和4年度は学校基本調査から通常学級のみ抽出

※令和10年度は令和4年7月1日現在の未就学児から推計/1クラス35人で算出

学校規模の適正化に関する基本的な考え方

公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引（平成27年1月27日 文部科学省）抜粋

【教育的な観点】

学校の果たす役割

児童生徒の能力を伸ばしつつ、社会的自立の基礎、国家・社会の形成者としての基本的資質を養う

学校では、単に教科等の知識や技能を習得させるだけではなく、児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けさせることが重要

- **一定の規模の児童生徒集団の確保**
- **経験年数、専門性、男女比等のバランスのとれた教職員集団の配置** が必要

学校規模の適正化に関する基本的な考え方

公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引（平成27年1月27日 文部科学省）抜粋

【地域コミュニティの核としての性格への配慮】

学校の果たす役割

教育のための施設であるだけでなく、防災、保育、地域の交流の場等、様々な機能を併せ持つ

学校教育の直接の受益者である児童生徒の保護者や将来の受益者である就学前の子供の保護者の声を重視しつつ、地域住民の十分な理解と協力を得る。



地域とともにある学校づくり

市内全小中学校
PTA役員対象アンケート
集計結果（抜粋）

平成27年5月実施

A PTA役員 回収数：610枚 平成27年5月実施

◎全校の児童生徒の人数について

佐屋地区

選択肢	回答数	%
かなり多い	7	3.1%
やや多い	36	16.1%
ちょうどよい	91	40.8%
やや少ない	73	32.7%
かなり少ない	15	6.7%
無回答ほか	1	0.4%

立田地区

選択肢	回答数	%
かなり多い	0	0.0%
やや多い	0	0.0%
ちょうどよい	20	19.0%
やや少ない	58	55.2%
かなり少ない	27	25.7%
無回答ほか	0	0.0%

八開地区

選択肢	回答数	%
かなり多い	0	0.0%
やや多い	0	0.0%
ちょうどよい	6	8.7%
やや少ない	26	37.7%
かなり少ない	37	53.6%
無回答ほか	0	0.0%

佐織地区

選択肢	回答数	%
かなり多い	0	0.0%
やや多い	5	2.3%
ちょうどよい	116	54.5%
やや少ない	81	38.0%
かなり少ない	11	5.2%
無回答ほか	0	0.0%

◎1学年あたりのクラス数について

佐屋地区

選択肢	回答数	%
かなり多い	5	2.2%
やや多い	27	12.1%
ちょうどよい	104	46.6%
やや少ない	71	31.8%
かなり少ない	15	6.7%
無回答ほか	1	0.4%

立田地区

選択肢	回答数	%
かなり多い	0	0.0%
やや多い	3	2.9%
ちょうどよい	26	24.8%
やや少ない	42	40.0%
かなり少ない	29	27.6%
無回答ほか	0	0.0%

八開地区

選択肢	回答数	%
かなり多い	0	0.0%
やや多い	1	1.4%
ちょうどよい	13	18.8%
やや少ない	22	31.9%
かなり少ない	33	47.8%
無回答ほか	0	0.0%

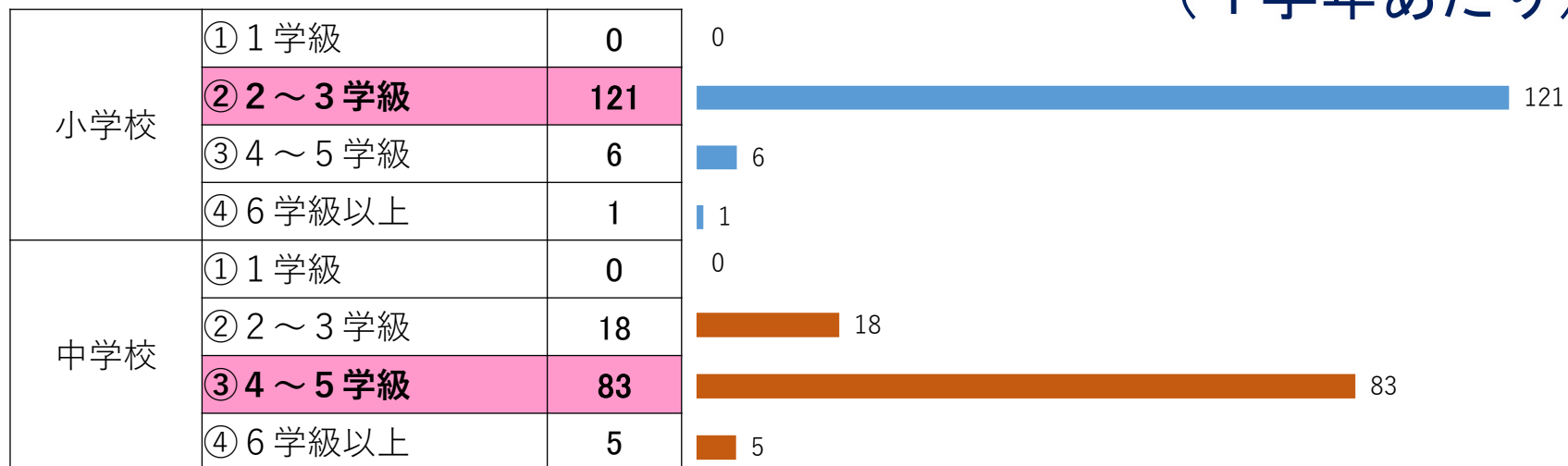
佐織地区

選択肢	回答数	%
かなり多い	1	0.5%
やや多い	5	2.3%
ちょうどよい	107	50.2%
やや少ない	88	41.3%
かなり少ない	14	6.6%
無回答ほか	1	0.5%

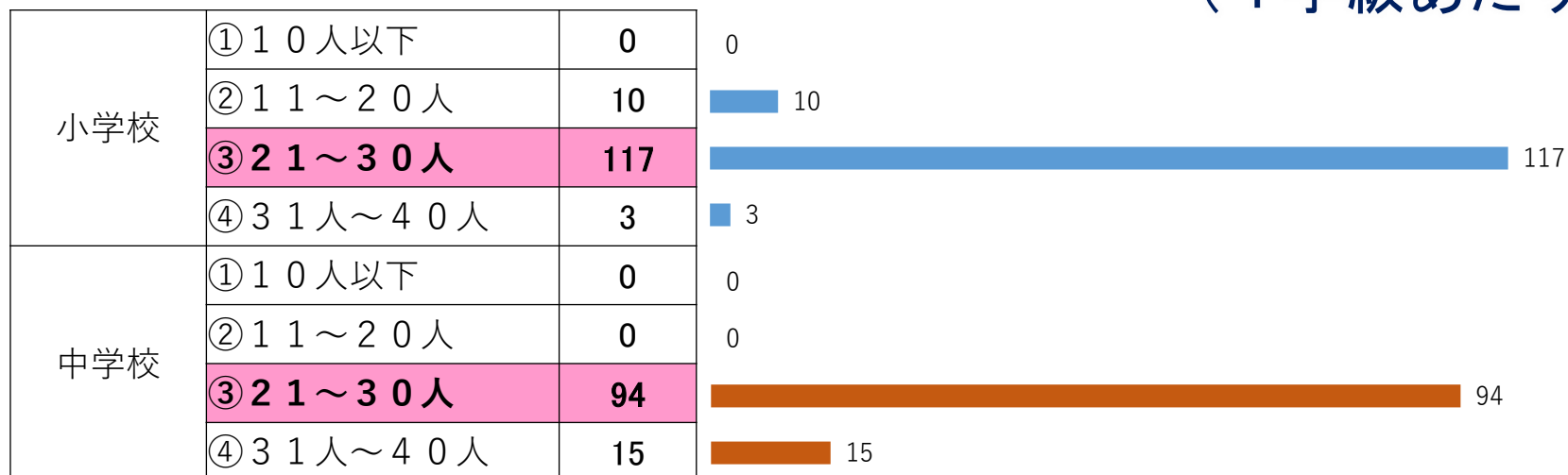
**海部管内公立小中学校
校長及び教務主任対象アンケート
集計結果（抜粋）**

平成30年6月実施

問 児童生徒が育つうえで、望ましいと思われる学級数 (1学年あたり)



問 児童生徒が育つうえで、望ましいと思われる学級人数 (1学級あたり)



問 小規模校・過小規模校のメリットについて、次から
上位3つを選んでください。

(回答数)

①児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい	131
②学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活動機会を得やすい	67
③教師と児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい	83
④異学年間の縦の交流が生まれやすい	53
⑤保護者や地域社会との連携が図りやすい	24
⑥災害発生等による緊急避難時に混乱が生じにくい	26
⑦ゆとりや安心感など、家庭的な雰囲気の中で勉強がしやすい	30
⑧その他	0

問 小規模校・過小規模校のデメリットについて、次から上位3つを選んでください。

(回答数)

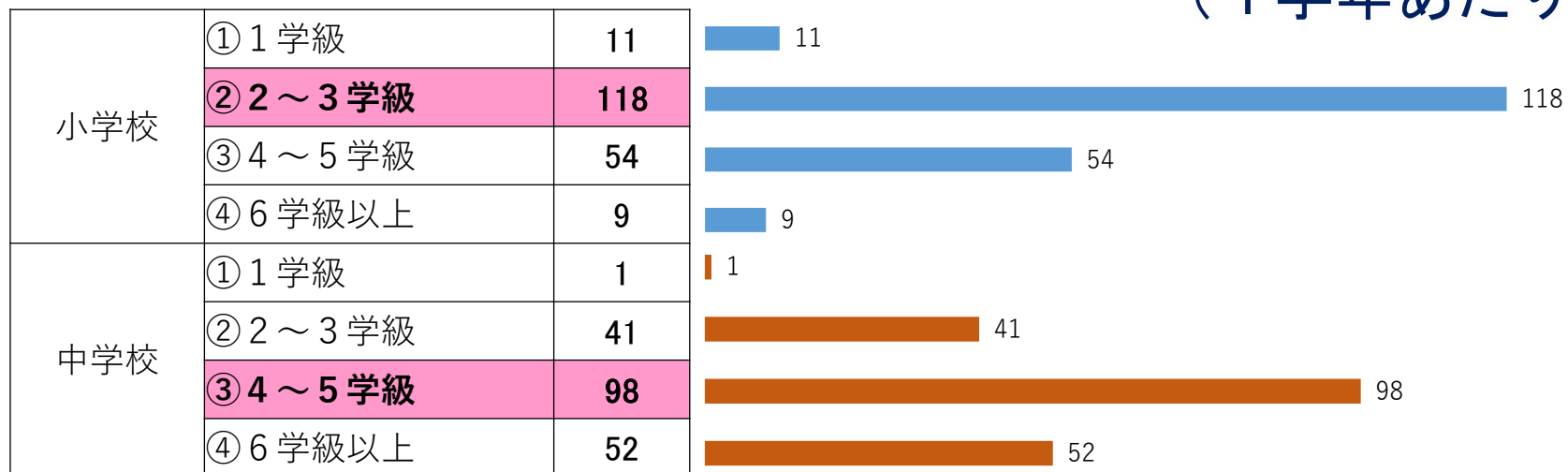
①多様な価値観に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少ない。	105
②中学校では各教科の免許を持つ教員をすべて配置しにくい。	78
③グループ学習や習熟度別学習等、多様な指導形態が取りにくい。	20
④部活動等の設置が限定され、選択肢が限られる。	53
⑤クラス替えが困難なことなどから、人間関係が固定し、友人間に序列ができやすい。	124
⑥男女比に極端な偏りが生じやすく、球技等でチーム編成ができない。	19
⑦多人数の前で自らの考えを発言することが少ないため、自信を持たせる指導機会が少ない。	12
⑧その他	4

高等学校 1 年生対象アンケート 集計結果（抜粋）

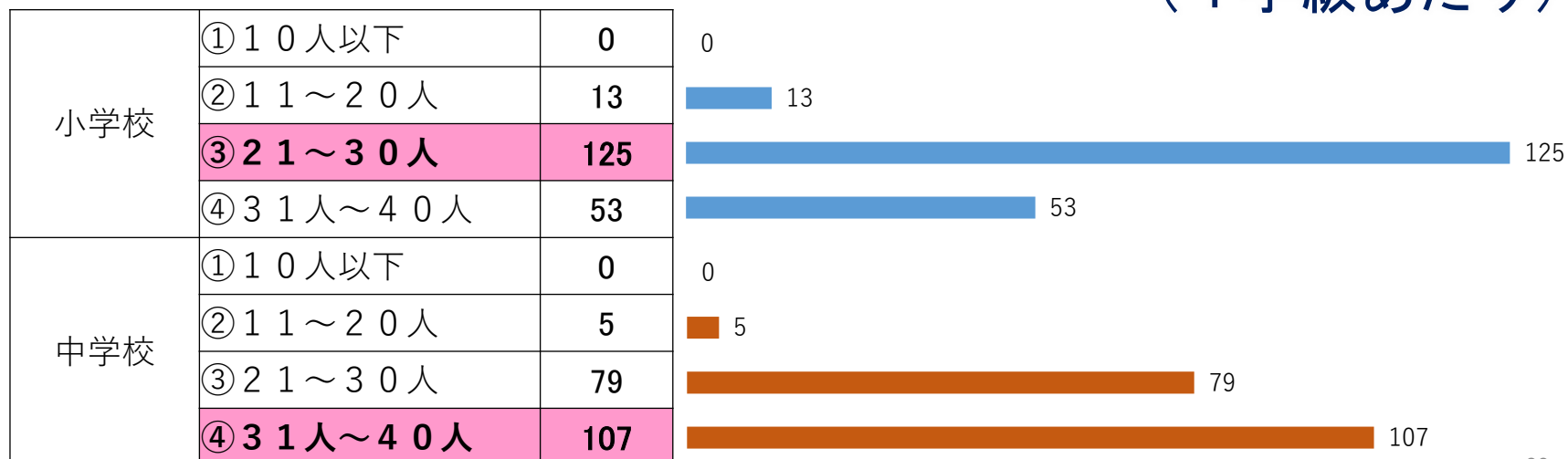
平成 3 0 年 6 月実施

津島高等学校・津島北高等学校・佐織工業高等学校
佐屋高等学校・清林館高等学校

問 小中学校時代を振り返り、望ましいと思われる学級数 (1学年あたり)



問 小中学校時代を振り返り、望ましいと思われる学級人数 (1学級あたり)



愛西市立小中学校施設老朽化の現状について（主要建物のみ）

令和4年6月1日現在

学校名	棟別	棟	建築年	経過年数	面積(m ²)
佐屋小学校	南校舎	東棟	昭和40年	57	1,113
佐屋西小学校	南校舎	東棟	昭和56年	41	2,739
市江小学校	南校舎	西棟	昭和50年	46	919
永和小学校	北校舎	東棟	昭和46年	51	1,223
立田南部小学校	南校舎	西棟	昭和35年	61	630
立田北部小学校	中校舎		昭和37年	59	809
八輪小学校	本校舎		昭和54年	43	2,636
開治小学校	本校舎		昭和55年	42	2,636
北河田小学校	北校舎		昭和46年	50	2,327
勝幡小学校	北校舎	東棟	昭和42年	54	847
草平小学校	北校舎	西棟	昭和45年	51	1,702
西川端小学校	南校舎	西棟	昭和49年	47	927
佐屋中学校	北校舎	西棟	昭和46年	51	1,706
永和中学校	北校舎	西棟	昭和44年	52	2,094
立田中学校	北校舎	中棟	昭和45年	52	1,355
八開中学校	東校舎		昭和50年	47	2,147
佐織中学校	校舎棟		平成18年	16	2,880
佐織西中学校	西校舎		昭和55年	42	2,190

中高一貫教育制度導入による影響

種別	高校名	併設中学校 学級数	入学定員	開校時期
愛知県立	津島高等学校	2学級	80人	令和7年4月
私立	清林館高等学校	2学級	70人	令和6年4月

愛西市を含めた近隣市町村から、毎年150人の小学生が上記中学校へ進学すると見込まれます。

適正規模等についての 検討の経緯

適正規模等についての検討の経緯

愛西市立小中学校適正規模等検討委員会

H26.5 ~ H26.11 検討委員会（5回）

※保護者代表・自治会代表を含めた委員8名により開催

H27.1 愛西市立小中学校適正規模等検討委員会から愛西市教育委員会へ
**愛西市立小・中学校における学校規模及び学校配置の基本的在り方
についての提案を提出**



愛西市教育委員会

H27.2 **愛西市立小中学校適正規模等基本方針を策定**

※HP及び広報平成27年4月号掲載

H27.3 3月議会に愛西市立小中学校適正規模等基本方針を報告

H27.5 市内小中学校PTA役員に対しアンケート実施



愛西市立小中学校適正規模等検討協議会

H27.7 ~ H28.8 検討協議会（8回）

※公募委員・各地区自治会代表・母親代表を含めた委員18名により開催

地域懇談会開催

H27.10 佐屋会場・立田会場

H27.11 八開会場・佐織会場 来場者にアンケート実施

H28.4 総代・副総代、幼・保育園、小・中学校にアンケート実施

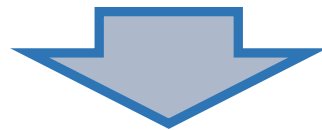
H28.9 愛西市立小中学校適正規模等検討協議会から愛西市教育委員会へ
愛西市立小中学校適正規模等基本計画の提案を提出

※HP掲載

《統合案1》立田・八開地区の学校すべてを統合し、小中一貫校1校にする。

《統合案2》立田地区で小学校1校、八開地区で小学校1校、立田地区と八開地区で中学校1校とし、小中一貫教育を進める。

《統合案3》立田地区で小学校1校・中学校1校、八開地区で小学校1校・中学校1校とし、各地区で小中一貫教育を進める。



愛西市教育委員会

10回にわたり定例・臨時教育委員会にて検討

H29.9 教育委員会にて適正規模等の方向性を決定（《統合案1》）

保護者説明会開催

※学校を通じて開催周知

第1回 H29.9.16・17 八開会場・立田会場

第2回 H29.11.18・26 八開会場・立田会場

地域説明会開催

第1回 H30.7.21・22 八開会場・立田会場

第2回 R1.9.21 八開会場・立田会場

昭和40～50年代に建てられた学校施設の老朽化

愛西市立小中学校施設老朽化対策検討委員会

R3.1 ～ R4.3 検討委員会（11回）

※学識経験者・小中学校長・学校評議員・有識者を含めた委員10名により開催

市内小中学校施設の現状把握や現地調査を実施

R4.3 愛西市立小中学校施設老朽化対策検討委員会から愛西市教育委員会へ
愛西市小中学校施設の老朽化対策に関する提言書を提出 ※HP掲載

児童生徒数の急速な減少

愛西市立小中学校適正規模適正配置等検証委員会

R3.12 ~ R4.3 検証委員会（5回）

※学識経験者・有識者・小中学校長を含めた委員9名により開催

R4.3 愛西市立小中学校適正規模適正配置等検証委員会から愛西市教育委員会へ
愛西市小中学校適正規模適正配置等についての提言書を提出 ※HP掲載



愛西市教育委員会

R4.4 愛西市立小中学校適正規模等基本方針（改訂案）の承認

R4.5~6 パブリックコメントの実施

R4.6 **愛西市立小中学校適正規模等基本方針の改訂版を策定** ※HP掲載



愛西市立小中学校適正規模等並びに老朽化対策検討協議会

R4.7 ~ R4.9 検討協議会（6回）

※有識者・校長代表・保護者代表・自治会代表・公募委員を含めた
委員20名により開催

R4.10 愛西市立小中学校適正規模等並びに老朽化対策検討協議会から
愛西市教育委員会へ
愛西市立小中学校適正規模等並びに老朽化対策基本計画（協議会案）を提出
※HP掲載



愛西市立小中学校適正規模等並びに老朽化対策地区検討協議会

R4.10 愛西市立小中学校適正規模等並びに老朽化対策地区検討協議会を設置
※委員は、有識者・保護者代表・自治会代表・公募委員・学校評議員等
※各地区ごとに設置

愛西市立小中学校適正規模等並びに老朽化対策 基本計画（協議会案）（抜粋）

（1）将来像として、**中学校は愛西市の南部と北部に1校ずつとする。**

ただし、現状の生徒数では、統合すると過大規模校や大規模校となり、さらに、永和中学校は2033年（令和15年）に過小規模校が見込まれるまで10年以上あること、佐織中学校は2033年（令和15年）まで10年以上適正規模校が維持されると見込まれることから、**段階的に以下のとおり対策を講じる。**

なお、**通学は徒歩又は自転車を原則とするが、通学距離が6 kmを超える場合は、生徒の通学方法を検討する。**

愛西市立小中学校適正規模等並びに老朽化対策 基本計画（協議会案）（抜粋）

- ① 佐屋中学校（老朽化：区分Ⅰ）と立田中学校（老朽化：区分Ⅰ）を統合し、佐屋中学校に配置する。
- ② 八開中学校（老朽化：区分Ⅳ）と佐織西中学校（老朽化：区分Ⅳ）を統合し、佐織西中学校に配置する。
- ③ 永和中学校（老朽化：区分Ⅱ）は、生徒数の推移を注視し、過小規模校となるまでに佐屋・立田統合中学校へ追統合する。
- ④ 佐織中学校（老朽化：区分Ⅴ）は、生徒数の推移を注視し、佐織中学校あるいは八開・佐織西統合中学校のどちらかが過小規模校となるまでに統合する。

愛西市立小中学校適正規模等並びに老朽化対策 基本計画（協議会案）（抜粋）

（２）小学校は、適正規模に向けた検討や老朽化対策の時期や手法について、以下のとおり対策を講じる。

① 永和小学校（老朽化：区分Ⅱ）

児童数の推移を注視

健全度調査を実施し、区分Ⅰの学校に続いて老朽化対策に着手

② 市江小学校（老朽化：区分Ⅲ）

児童数の推移を注視し、全学年1学級が見込まれた際には、適正規模化に向けた検討を開始

老朽化の状況を調査し、区分Ⅰ・Ⅱの学校への対策時期と調整を図りながら、老朽化対策に着手

③ 佐屋小学校（老朽化：区分Ⅰ）

児童数の推移を注視

校舎の必要な面積を検討し、準備ができ次第、速やかに老朽化対策を実施

愛西市立小中学校適正規模等並びに老朽化対策 基本計画（協議会案）（抜粋）

④ 佐屋西小学校（老朽化：区分Ⅳ）

児童数の推移を注視し、全学年1学級が見込まれた際には、適正規模化に向けた検討を開始

老朽化の状況を調査し、区分Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの学校への対策時期と調整を図り、老朽化対策に着手

⑤ 立田南部小学校（老朽化：区分Ⅰ）

統廃合を含め、速やかに、かつ定期的に、適正規模に向けた検討を開始
統廃合を実施する場合は、以下についても検討

- ・ 設置場所の検討
- ・ 通学路の安全性と距離・時間を確認
- ・ 地域コミュニティ、避難所等の機能の確保
- ・ 跡地利用の提案

老朽化対策は、適正規模の方向性が決まり次第、速やかに実施。それまでは、修繕で対応

愛西市立小中学校適正規模等並びに老朽化対策 基本計画（協議会案）（抜粋）

⑥ 立田北部小学校（老朽化：区分Ⅰ）

統廃合を含め、速やかに、かつ定期的に、適正規模に向けた検討を開始
統廃合を実施する場合は、以下についても検討

- ・ 設置場所の検討
- ・ 通学路の安全性と距離・時間を確認
- ・ 地域コミュニティ、避難所等の機能の確保
- ・ 跡地利用の提案

老朽化対策は、適正規模の方向性が決まり次第、速やかに実施。それまでは、
修繕で対応

⑦ 八輪小学校（老朽化：区分Ⅲ）

統廃合を含め、速やかに、かつ定期的に、適正規模に向けた検討を開始
統廃合を実施する場合は、以下についても検討

- ・ 設置場所の検討
- ・ 通学路の安全性と距離・時間を確認
- ・ 地域コミュニティ、避難所等の機能の確保
- ・ 跡地利用の提案

老朽化の状況を調査し、適正規模の方向性が決まり次第、区分Ⅰ・Ⅱの学校
への対策時期と調整を図りながら、老朽化対策に着手

愛西市立小中学校適正規模等並びに老朽化対策 基本計画（協議会案）（抜粋）

⑧ 開治小学校（老朽化：区分Ⅳ）

複式学級が見込まれる5年前までに、適正規模に向けた具体的な方策を検討（現状は、令和7年度までに具体的な方策を決定）

統廃合を実施する場合は、以下についても検討

- ・ 統合校の配置
- ・ 通学路の安全性と距離・時間を確認
- ・ 地域コミュニティ、避難所等の機能確保
- ・ 跡地利用の提案

老朽化対策は、適正規模の方向性が決まり次第、区分Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの学校への対策時期と調整を図り、老朽化対策に着手。それまでは修繕で対応

⑨ 北河田小学校（老朽化：区分Ⅱ）

児童数の推移を注視

健全度調査を実施し、区分Ⅰの学校に続いて老朽化対策に着手

愛西市立小中学校適正規模等並びに老朽化対策 基本計画（協議会案）（抜粋）

⑩ 勝幡小学校（老朽化：区分Ⅱ）

児童数の推移を注視し、全学年1学級が見込まれた際には、適正規模化に向けた検討を開始

健全度調査を実施し、区分Ⅰの学校に続いて老朽化対策に着手

⑪ 草平小学校（老朽化：区分Ⅲ）

児童数の推移を注視

老朽化の状況を調査し、区分Ⅰ・Ⅱの学校への対策時期と調整を図りながら、老朽化対策に着手

⑫ 西川端小学校（老朽化：区分Ⅳ）

児童数の推移を注視し、全学年1学級が見込まれた際には、適正規模化に向けた検討を開始

老朽化の状況を調査し、区分Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの学校への対策時期と調整を図り、老朽化対策に着手

**愛西市立小中学校適正規模
等並びに老朽化対策
地区検討協議会の目的**

地区検討協議会の目的

① 基本計画（協議会案）の提案における中学校の対策

- 統廃合後の通学時間・距離の確認及び通学方法の検討
 - ・通学に係る時間や距離の妥当性の検証
 - ・通学路の安全確認と安全確保に必要な対策の提案
 - ・体力維持のための方策を含めた通学方法
 - ・学区再編成の必要性
- 老朽化対策の時期と手法の妥当性
- その他、疑問点や問題点、課題となる事項と、解決策の提案

地区検討協議会の目的

② 基本計画（協議会案）の提案における小学校の対策

- 全学年 1 学級の小規模校における適正規模に向けた検討
 - ・通学に係る時間や距離の妥当性の検証
 - ・通学路の安全確認と安全確保に必要な対策の提案
 - ・体力維持のための方策を含めた通学方法
 - ・学区再編成の必要性
- 中学校の統廃合に伴う小学校への影響
- 老朽化対策の時期と手法の妥当性
- その他、疑問点や問題点、課題となる事項と、解決策の提案

地区検討協議会の目的

③ 地域コミュニティ、避難所等の機能確保

- 小中学校への対策後、予想される問題や課題となる事項と、機能確保のために必要な対策の提案

④ 跡地利用

- 小中学校への対策後、必要に応じて当該地区から提案